

霧島総局・山下翔吾

# 記者の目

霧島市福山の牧之原地区にある惣陣が丘(標高483・5㍎)を「存じだろうか。1561(永祿4)年、島津氏と肝付氏による廻城攻防で、島津貴久・義久親子が本陣を置いたとされる。斜面には縦5㍎、横250㍎の花文字「フクヤマ」があり、地区のシンボルとして定着している。

先日、花文字の維持管理などに取り組む地元のNPO法人「霧島ふつきやまぼつけもん会」(24人)が設立30年を迎えた。「福山に日本一をつくらう」とのアイデアをきっかけに、住民ら300人以上がツツジ約6千本を植樹して完成させた花文字。これまで福山をPRする「案内板」の役割を果たしてきた。

## 「フクヤマ」の象徴

3年前には頂上に展望所が完成。麓の駐車場から歩いて約15分、晴れた日は霧島連山や高隈山系、桜島などをグルッと見渡すことができる。遊歩道にある鹿児島弁の道しるべもユニークで、鹿児島大学の井村隆介准教授は「こんなにたくさん火山が見える場所は他にない」と太鼓判を押す。

ただ、市内随一の絶景スポットでありながら、来訪者は決して多くない。トイレなどの施設整備や情報発信が十分でないのが理由だろう。川畑巧理事長(68)は「もっとたくさん子どもたちが訪れる場所になりたい」と言う。観光客や家族連れでにぎわう場所にするには、まだまだ改善の余地がありそうだ。

2018・5・10

農舞台で演舞  
地元住民満喫  
福山・羽山まつり

霧島市福山町佳例川の羽山神社で3日、農作業の安全を願う「羽山まつり」があった。境内の「農舞台」で踊りや歌、福山高校吹奏楽部による演奏など多彩な催しがあり、地元住民らが楽しんだ。

同まつりは、神社が建てられた1732



エイサーを披露する第一工業大学生  
＝霧島市福山の羽山神社

年から続くといわれる。ゲートボール大会や来場者の体重当てクイズもあり盛り上がった。

第一工業大学4年の當銘由也さん(21)は沖縄出身の同級生2人とエイサーを披露した。大太鼓を担ぎながらの演舞で会場を沸かせ、「小さな集落のお年寄りに喜んでもらえてうれしい」と笑顔を見せた。(濱田朋美)